



くちなぎ (イソフェフキ)

～産卵に伴う移動、生活史特性の変化についての研究～

① まずは、自己紹介

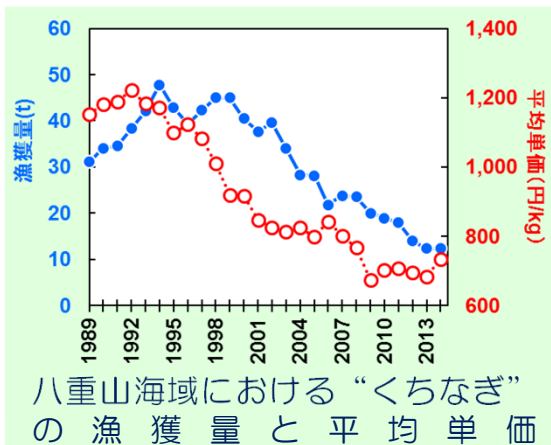
“くちなぎ”は、和名をイソフェフキと言い、“たまん”などと同じフェフキダイ科の魚です。八重山では“くちなぎ”ですが、沖縄本島では、“くちなじ”宮古では、“ふつなず”と呼ばれています。“くちなぎ”はどんな魚なのでしょう？



くちなぎのプロフィール

寿命	約20年（八重山での最高齢：23歳）
最大サイズ	約40cm
産卵期	3～6月頃
好きな食べ物	小型の巻貝やゴカイ類、魚、カニ等
主なすみか	サンゴ礁域

② “くちなぎ”の漁業

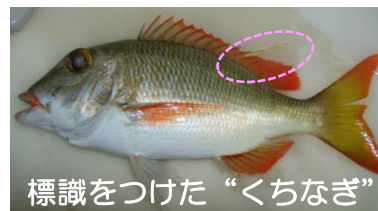
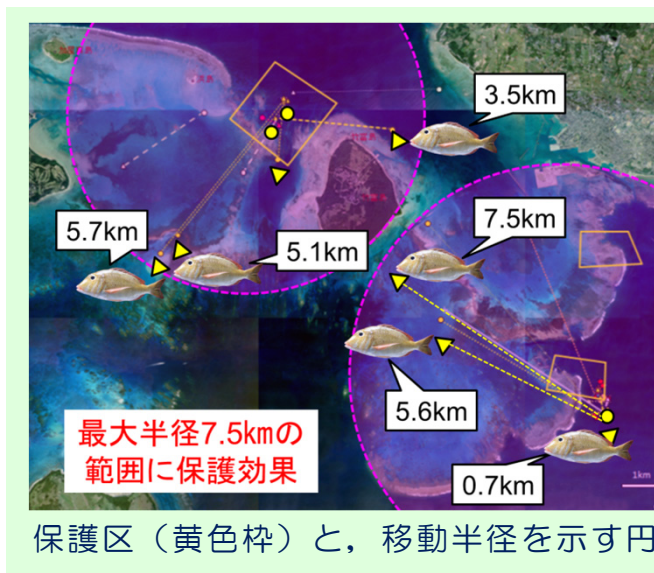


延縄漁の様子

“くちなぎ”は、多様な漁法で漁獲されており、八重山で最もポピュラーと言える魚ですが、その漁獲量は減少が続いています。原因は、生息環境の悪化

や産卵に集まった親を獲りすぎたことによる資源の減少に加え、価格が低下して海人が獲らなくなったためではないかと考えられています。

③ 産卵のために大移動!?

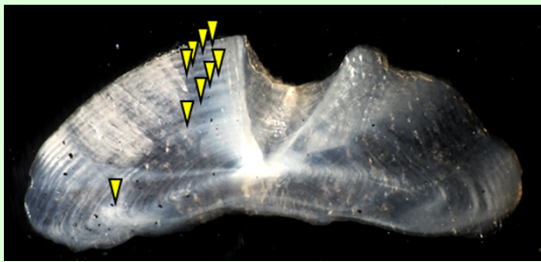


標識をつけた“くちなぎ”

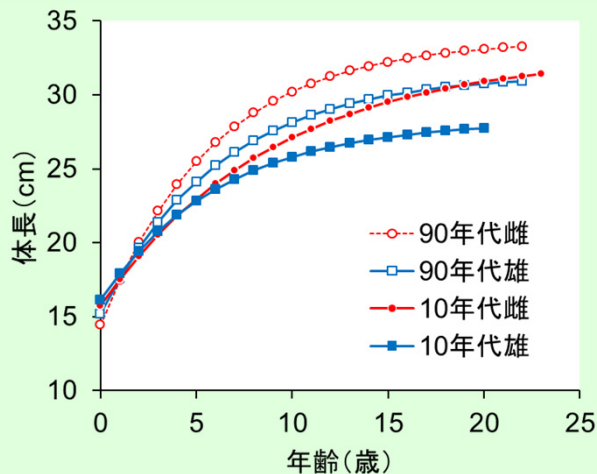
“くちなぎ”は、産卵の時期になると特定の場所に大きな群れを作るため、

これを狙って大量に漁獲されてきました。沖縄県では、“くちなぎ”が産卵に訪れる保護区の効果を検証するため、保護区で捕まえた魚に目印をつけて放流したところ、最大で約7.5 kmも移動することが分かり、保護区はその面積の何倍もの範囲に生息する魚を保護できることが明らかになりました。

④ 「型」が小さくなった、ってよく聞くけど…

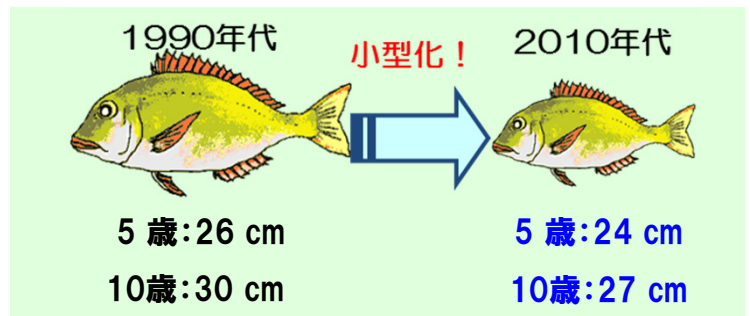


“くちなぎ”の耳石切片
(体長26cm：推定9歳)

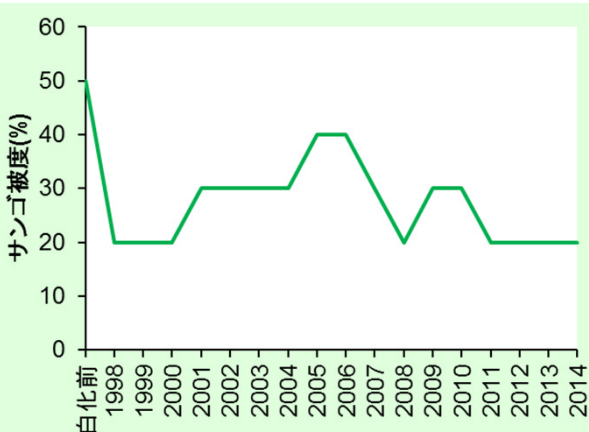


八重山海域の“くちなぎ”の90年代と2010年代の年齢と成長

古参の海人から「魚が小さくなった」と聞くことがよくありますが、近年“くちなぎ”の「カタ」がいつそう小さくなっていることが分かってきました。一般的に魚の年齢は、耳石という組織を薄切りし、左の写真に見られるような「筋」を数えることで調べています。こうして年齢と体長の関係を調べたところ、約20年前と比べ、雌雄とも小型化していることが分かりました(左図)。その原因として、成長が早いものが選択的に獲られていなくなった、仲間が少なくなったため、成長よりも卵を作ることにより栄養を回すようになった、環境が悪化し、餌が少なくなった、といった可能性が考えられますが、その特定は困難です。

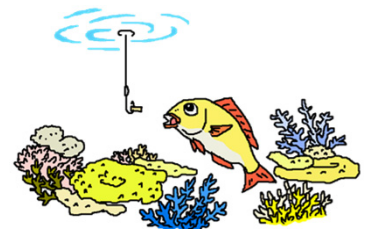


⑤ “くちなぎ”資源回復に向けて



石垣島周辺のサンゴ被度
(環境省自然環境局資料より)

沖縄県では、これまで“くちなぎ”を始め、として沿岸魚類の資源を回復させるため、漁獲体長制限や産卵保護区といった資源管理策の研究と提案をしてきました。しかしながら、資源の回復には、漁獲を減らすことに加え、魚を育むサンゴ礁の環境を回復させることも重要です。それには、畑からの赤土や、生活排水からの栄養塩といった環境負荷を減らすことが重要であると考えられます。



⑥ 参考資料・文献

- Ebisawa A., 1999. Reproductive and sexual characteristics in the Pacific yellowtail emperor, *Lethrinus atkinsoni* in waters off the Ryukyu Islands. Ichthyological Research. 46: 341-358.
- Ebisawa A., 2006. Reproductive and sexual characteristics in five *Lethrinus* species in waters off the Ryukyu Islands. Ichthyological Research. 53: 269-280.
- 環境省自然環境局 生物多様性センター, 2015. 平成26年度 西表石垣国立公園石西礁湖及びその近隣海域におけるサンゴ礁モニタリング調査報告書, pp. 134.